

平成 21 年度 大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会
森林生態系部会・ニホンジカ保護管理部会・合同現地検討会
議事概要

◆日 時 平成 21 年 7 月 9 日（木）12：00 ～ 平成 21 年 7 月 10 日（金）15：00

◆場 所 奈良県吉野郡上北山村大台ヶ原

◆出席者

<委 員>

川瀬 浩	日本野鳥の会 奈良支部 支部長
高田 研一	高田森林緑地研究所 所長
鳥居 春巳	奈良教育大学教育学部付属 自然環境教育センター 准教授
日比 伸子	橿原市昆虫館 資料学芸係長
松井 淳	奈良教育大学 教授
村上 興正	元京都大学 講師

(以上敬称略)

<事務局>

近畿地方環境事務所	佐々木 仁	統括自然保護企画官
	上村 邦雄	野生生物課長
	角 智則	自然保護官
	櫻又 涼子	自然保護官
吉野自然保護管事務所	濱名 功太郎	自然保護官
(株) 環境総合テクノス	樋口 高志	環境部マネージャー
	保延 香代	環境部リーダー
(財) 自然環境研究センター	永津 雅人	第 2 研究部長
	荒木 良太	第 1 研究部部長代理
	岸本 年郎	研究員

◆議 事

- (1) 平成 22～23 年度における防鹿柵設置予定箇所の現地検討
- (2) 平成 21 年度におけるラス巻き直し箇所の現地確認
- (3) 今年度のスケジュールについて

◆議事概要

1. 平成 22～23 年度における防鹿柵設置予定箇所の現地検討について

【現地検討結果のまとめ】

- ・ 平成 22～23 年度新規防鹿柵設置地点の優先度は地点 2・2→4・8→14 とする。
- ・ 防鹿柵の線形を確定する際には、高田委員に現地指導を頂く。

【地点別現地検討結果】

① 地点 2-1 について

- ・ 地形が安定しているため、溪畔林保護という観点からは優先度が低い。

② 地点 2-2 について

- ・ ここは優先度が高い。
- ・ 崩壊地の上から囲い込むように防鹿柵を設置する。崩石性と残石性に適応した植生が成立すると考えられる。ここはこれ以上土が崩れないと考えられるため土留めはしない方がよい。

③ 地点 2-3 について

- ・ ここは開拓の延長で、人の手が入った場所であるため、開拓と同様に自然性の高い場所を保護するとの考え方では優先度が低い。

④ 地点 13 について

- ・ 開拓は人の手が入っていることから考えて、元々多様性が高い場所でないのであれば優先度は低い。防鹿柵を設置する意味づけも弱い。
- ・ 人目につきやすい場所であることから防鹿柵設置は避けた方がよいのでは。

⑤ 地点 4~8 について

- ・ 右岸側は水による攪乱が少ないため、トチノキーサワグルミ林の回復は望みにくい。
- ・ トチノキーサワグルミ林を回復させるのであれば、攪乱の生じやすい左岸側がよい。設置目的は「溪畔林保護」でよい。
- ・ 左岸側は近くにニホンジカによる植生への影響調査地点があるため、それをコントロールとして、防鹿柵を張った後の変化をモニタリングするとよい。
- ・ ニホンジカによる植生への影響調査地点が防鹿柵設置の影響を受けないように離して設置する。
- ・ 右岸側の湧水地についても、予算がゆるせば明るい場所を小さく囲うとよい。
- ・ 水流の影響下に防鹿柵を設置する場合、ネットの下の部分を鉄の棒でスリットを作るなど、いろいろ手法を試行すべき。モノレールを使用しなくても設置できるものなど素材（ダイニーマネット等）も検討すべき。地域経済の振興なども視野に入れるべき。

⑥ 地点 14 について

- ・ 古い流路と本流の間の水のたまり場は、防鹿柵を設置することにより生物多様性が高まるのではないか。防鹿柵の設置目的は「多様性保護」でよい。
- ・ この場所は西大台の緩斜面地形の典型だと思う。数百年オーダーで流路が変わり、溪畔林とブナ-ウラジロモミ林が入れ替わって群落を形成していたことを示しているおもしろい場所である。

⑦ その他の箇所

- ・ 経ヶ峰の道沿いのギャップ地にヒノキ天然林の再生を目的として、一箇所防鹿柵（パッチディフェンス：6m×10mを2箇所程度）を設置してもよい。

⑧ 地点 10-2 について（平成 21 年度追加防鹿柵設置予定箇所）

- ・ 防鹿柵を設置する際には、予算に応じてギャップ地の奥の崩壊地も含めて広めに囲う方がよい。

2. 平成 21 年度におけるラス巻き直し箇所の現地確認について

- ・ 樹脂製ラスのメリットは？

→亜鉛イオンがでないため、樹幹性の蘚苔類への影響が少ないと考えられる。（事務局）

- ・ 樹脂製のラスは伸縮性がないため、巻く場合はかなり余裕をもって巻く方がよい。
 - ・ 樹木に合わせてラスを巻くのではなく、あらかじめ円筒を作って樹木に合わせる形で巻いてはどうか？作業の効率性があがるのではないか。
 - ・ 樹脂製のラスは思ったよりも目立たないのでは？
 - ・ 10年たってもほとんど劣化していないので、幹に余裕を持って巻けば20年持つかもしれない。
 - ・ 従来のラスと樹脂製のラスについて評価はした方がよい。
 - ・ 巻き直しをするよりも、まだラスを巻いていない場所で実施する方を優先すべきではないか？
 - ・ 樹幹性蘚苔類へのラスの影響について、佐久間委員より予備調査の結果の提示があった（FAXによる）。調査の結果、金属製のラスから放出される金属イオンによる蘚苔類の生育への影響が示唆された。
 - ・ ミヤコザサ草地と森林の境界線にあるラスを巻いていない樹木を優先的に巻いていくべきである。新規のラス巻きは林縁部を優先的に巻いていく。平成21年度実施分の半分でもこのような場所に巻いた方がよい。
- 第二期計画では、森林衰退が進んでいる場所で優先的に具体的取組を行うことを示しているので、次年度以降は組み入れていく。（環境省）
- ・ 来年予備調査を実施して、ラスを巻くべきエリアの計画を立てる。第二期計画ではラス巻きの方針を変更したことを明確にすること。
 - ・ 森林衰退の境界線に新規にラス巻きを行った場合は、その効果についても見ておく必要がある。
 - ・ 森林衰退の境界線に巻くものを優先すると、巻き直し分が計画どおりできなくなるのでは？
 - ・ 巻き直し期間を10年よりも伸ばしてその分を新規ラス巻き分に回してもよいのではないか。
 - ・ 施工性、費用、蘚苔類への影響などの面から、樹脂製ラスと金属製ラスの評価をしっかりとしておくべきである。その評価を次年度以降使えるようにしておくこと。
- 今年度の工事実績から歩掛りを算出できるよう、樹脂製ラスを混ぜて今年度は実施する。（環境省）
- ・ 佐久間委員に樹脂製ラスの蘚苔類への影響調査をやってもらえるように依頼したい。

3. 設置済みの防鹿柵について

① 防鹿柵No.35について

- ・ この場所は紀州のヒノキ天然林に近い。下層はミヤマシキミが多いが、ギャップ地ではスズタケの回復が早いのではないか。
- ・ ミヤマシキミは短期的には拡大するが、疎密があるので疎になったときに稚樹が入り、上層ができると減少するのではないか。ミヤマシキミ群落の変化についても見ておく必要がある。
- ・ ヒノキの幼樹があるので更新していくだろう。
- ・ 防鹿柵で困った中の現状評価をしておくべき。どのような調査が必要かを検討しておくこと。次の森林生態系部会に向けてWGで検討しておくこと。
- ・ 防鹿柵設置後のモニタリングの計画を立て、全ての防鹿柵で適用できるようにしておく。定点写真だけでもよい。

② 防鹿柵No.32について

- ・ 植生が回復しており、設置の効果が出ている。

- ・（落石により柵が破損した場所からシカが侵入していたことを受けて）落石のおそれがあるもの、危険木などは防鹿柵の設置前に処理しておけば後のメンテナンスが楽になる。
- ・ 防鹿柵設置後1年程度の補修の保障は業者に義務付けるべき。

4. その他

- ・ セツ池における15年前の鳥類のテリトリー調査では、コマドリ10つがい、コルリ9つがいが確認されたが、2003年ではコマドリ5つがい、コルリ0、2007年ではどちらも0となった。また、33年前に駐車場から逆峠（西大台）に至る調査ではコマドリが22つがい確認されたが、現在では0であった。野鳥の会としては、来年ぐらいに全域調査をしたいと考えている。
- ・ 防鹿柵№31、32で昆虫調査をした。今年は調査時期が遅いため、来年も実施したい。調査を行った神戸大学内藤先生によると、植生が回復しているわりにはハバチ類が少ないとのことであった。植物の回復に昆虫の回復がまだ追いついていないのではないかな。
- ・ くくりわなについては、時間がたつとシカが学習して効率が落ちるので、実施するときには一気にやる必要がある。林野庁が実施する際にはこの点を伝えておく必要がある。
- ・ 環境省によるノウハウを林野庁に展開する必要がある。
- ・ 林野庁からの要請に対応できる体制にしておく必要がある。
- ・ 平成21年度設置予定の防鹿柵№39は崩壊地をジュートで留めてから設置する予定。ジュートは2年程度で分解される。（環境省）

5. 今年度のスケジュールについて

- ・ 例年3月に実施していた評価委員会を2月末に実施したい。10月の森林部会にはラスの素材別の評価を出したい。WGでは新規の具体的取組や、これからのモニタリングの内容について検討したいと考えている。（環境省）
- ・ 大台ヶ原のガイドブックの作成を今年の課題に入れておいて欲しい。
- ・ 大台ヶ原ガイドブックについて、昆虫部分については、2年前に成果を既に環境省に納品している。昆虫以外の植物等についてはもっと前に出来ているのではないかな？
→確認しておきます。（環境省）

[文責：近畿地方環境事務所]